

IV-6

行動の背景を理解して対応しよう

(1) 行動の背景に目を向ける必要性

児童生徒は、同じ環境下でも見せる表情や行動は一人一人異なります。それは、児童生徒一人一人の障がいの特性や性格、家庭環境などが異なるためです。

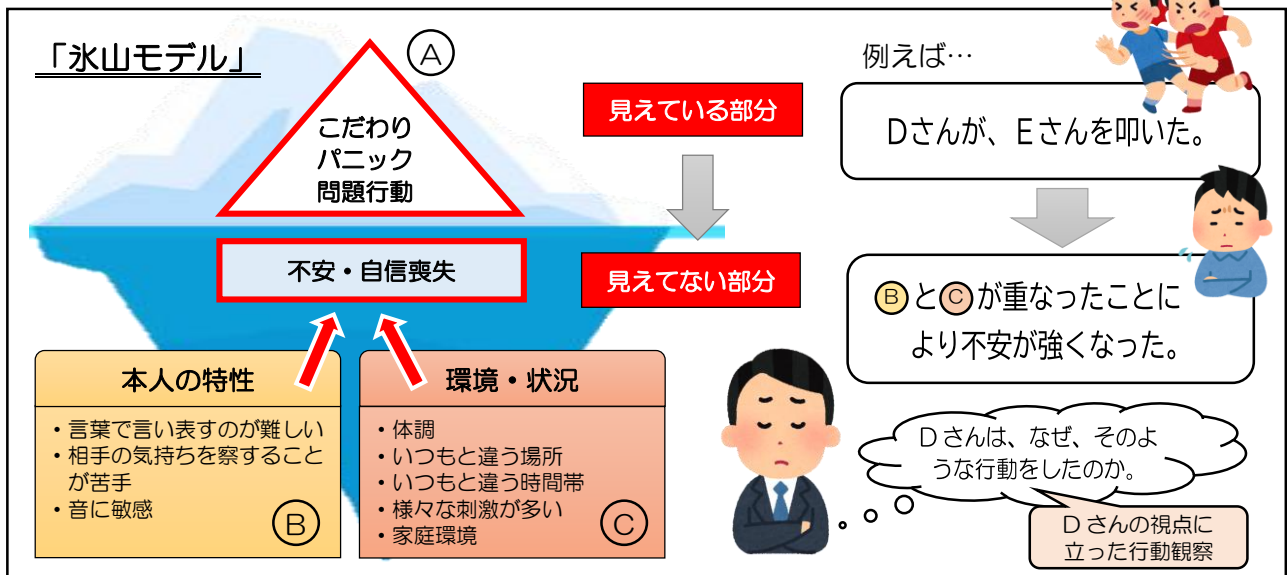
学級担任が児童生徒の実態を踏まえて関わるためには、児童生徒の行動に着目して指導するだけでなく、行動の背景や要因を把握することが大切です。

児童生徒の行動には、どのような要因が隠れているのか、なぜ、そのような行動や言動が生じたのか、児童生徒の気持ちや感じ方に目を向けようとする姿勢が大切です。

(2) 児童生徒理解に必要な考え方

「冰山モデル」は、児童生徒の行動を氷山の一角に例え、水面下の要因にも着目し、行動の背景を推測しようとする考え方です。

児童生徒の水面下の要因に目を向け、児童生徒の内面に対する共感的理解等をもって児童生徒理解を深めることが大切です。



【児童生徒理解のポイント】

児童生徒の視点に立った行動観察をする	児童生徒の心理面を考える	児童生徒の話を傾聴する	児童生徒の保護者と連携を図る
--------------------	--------------	-------------	----------------

実態を把握し、支援につなげる

【具体的な支援の例】

- 児童生徒の実態に合った目標を設定し、充実感や成就感を生み出す。
- 見通しをもたせ主体的に活動できるようにする。
- 学校内に児童生徒が安心できる居場所を作る。
- 児童生徒が分かる言葉で簡潔に伝える。
- 児童生徒の良い面を生かす。
- 教材・教具を工夫し、分かりやすく伝える。
- 児童生徒に対して教師がチームで支援する。